

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・**実施結果**）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9、14日実施)	総合評価(3月31日現在)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高一貫教育の特色ある教育課程を策定し、知的好奇心を引き出し、高い学力と志を身に付けさせる。</li> <li>・探究学習を中心にカリキュラム・マネジメントを展開し、「自ら考え・調べる」姿勢を育成する。</li> <li>・主体的・対話的な深い学びの「深い学び」を重点研究し、言語活動の充実を図りながら科学的根拠に基づく理論的思考、表現力を育成する</li> <li>・国際社会へ貢献できるよう英語運用力向上を目指す。</li> </ul>	<p>①4年の集約として新学習指導要領の手だてを整理する。</p> <p>②英語運用力の到達度を検証する。</p>	<p>①教科横断の視点と「思考・判断・表現」および「指導と評価の一体化」共通テーマとしてチームで研究を進める。</p> <p>②英検受験、合格率とGTECスコア、および共通テスト平均点を4年分検証し、現状分析と目標を再設定する。</p>	<p>①研究成果と教科への還元はどうであったか。</p> <p>②データの作成と分析結果はどうであったか。</p>	<p>①研究日を3日間設定し、全日程で外部から講師を呼び全職員で共通認識を深めながら効果的に進めることができた。</p> <p>②卒業時の6年次で英検準1級取得者の割合が10%を超えた。(本校目標のB1は、現在集計中)資格取得率は5年次までは1.3倍となった。</p>	<p>①ルーブリックを作成するための時間が十分に取ることができなかった。そのためもっと研究日の日数を確保するとともに研究する時間の確保が課題である。</p> <p>②生徒に英語各資格・検定試験を一層推奨するとともに、保護者への周知を英語科として継続する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業等で英検等の情報提供や受検の働きかけをもっとしてほしい。(保護者意見)</li> <li>・ルーブリックがどれだけ作れるようになったのかの検証が欲しい。ルーブリックは原案を教員が示し、生徒が目標を整理していくやり方が本来である。また、生徒自身が変容に気づき、次につなげることを考えさせる時間の確保も必要(運営委員)</li> </ul>	<p>①研究日に外部講師を招聘することは職員にとっても新たな視点につながってよかった。</p> <p>②「Cross School」の提示により、校外学習への意欲が増えた。</p>	<p>①新カリキュラムになって3年目となるので、指導と評価の計画としてルーブリックを計画的に活用する姿勢が求められる。評価ありきの授業計画が大きな課題。</p> <p>②充実期において、経験を増やすことは、中高一貫では重要であることを、もっと発信していく必要がある。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主自律を推奨し、目標達成を諦めない精神力と規範意識、思いやりをもって下級生を指導するリーダー意識を醸成する。</li> <li>・6年間を安心して過ごせるよう生徒・保護者が利用しやすい教育相談体制を確立する。</li> </ul>	<p>①「継承と深化」に主体的に取り組ませる。</p> <p>②「心と体」をテーマに6年を貫いた指導体制を確立する。</p>	<p>①生徒による組織的改革を指導する。(継続)</p> <p>②教科協働の視点で年次計画を作成し、振り返りアンケートを実施する。</p>	<p>①改革案の実行はどうであったか。</p> <p>②実施内容と生徒評価はどうであったか。</p>	<p>①生徒会組織の見直しに取り組み、委員会活動の改革に着手することができた。制服リサイクル、活動の透明化などの公約も実現できた。</p> <p>②すべての学年で、「心と体」に関する授業や講演会を実施した。ケース会議は3回実施し、解決または現状維持につながった。サポートドックの実施により、5件が専門職によるプッシュ型面談につながった。</p>	<p>①「前期生の自習室」など、実現が難しい公約を掲げてしまいう立候補者がいる。事前に立候補者説明会で生徒会グループより「特別活動における生徒会活動の意義について」指導する。</p> <p>②学年によって、ケース会議や専門職への相談の新規件数に偏りがある。まずは教員の意識を変えて、より気軽にケース会議を開いたり、専門職への相談につなげたりできるとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期課程、後期課程のくりくりをなくした委員会活動を始めることは良い改革である。(運営委員)</li> <li>・不登校生徒への支援は前期課程では必須であり、教員の時間確保も必要。スクールメンターの固定配置など教育委員会に要望するべき。(運営委員)</li> </ul>	<p>①新たな企画については管理や実現に向けた過程を生徒に理解させるという視点も必要となり、あらたな気づきにつながっている。</p> <p>②ケース会議については状況整理が良くなされ、場面支援につなげることができている。また、不登校生徒についての面談を計画的に進めることで、前期課程修了時に本人の意思を引き出すことにつながったのは成果である。</p>	<p>①実現に向けた意欲と具体的手だてがかみ合っていない様子が見られる。その点については、職員の指導・支援も課題となっている。</p> <p>②時代の変化とともにSNSにかかわる指導の整備が必要である。特に技術進化が進み、前期課程生の家庭指導の促しが必要である。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9、14日実施)	総合評価(3月31日現在)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>・5教科受験での国公立大学を推奨し、60名以上の現役合格者を目指す。諦めさせない進路指導により、国立大・難関大第一志望現役合格率75%を目指した段階的・体系的な支援・指導を行う。</p> <p>・高い志を維持させるため、実践・経験値を高めさせ、自己変容のプロセスを重視したキャリアプランニングを指導する。</p>	<p>①国公立のより迅速な受験結果の集約に向けDXを活用する。また、教育計画に係る進路実績の分析と指導体制を検証する。</p> <p>②主体的社会貢献としてのコンテスト参加を促し(継続)目指す生徒像の理解度の検証とコンテスト等参加状況を分析する。</p>	<p>①受験報告方法の見直しと国立大合格者数の推移と指導体制の変遷をまとめる。</p> <p>②検定やコンテスト参加数調査を継続する。参加経験のある生徒による募集説明会を実施する。</p>	<p>①教育計画目標(4年間の目標)に対する到達度はどうであったか。</p> <p>②SSS 振り返りシートの経年検証結果と参加者数の検証</p>	<p>①学校推薦、総合型選抜の受験者が増加した。「総合的な探究の時間」の研究内容や日経ストックリーグの内容を活用する生徒も多く、探究学習を進路選択に生かすことができた。</p> <p>①受験報告方法はGoogle Formsを利用し、迅速な集計に努めた。国公立合格者数は目標達成した。</p> <p>②4年次の校外学習参加率が増加。コンテスト参加数のべ570名(作文1,2年全員320名、ストックリーグ160名含む)特別土曜講座12講座160名(うち他校生参加講座3講座45名)</p>	<p>①進路実績として10年が経過するので、引き続き国公立大学を推奨し、60名以上の現役合格者の目標を掲げ、高い志を支援していく必要がある。</p> <p>②引き続きコンテストなどの紹介を続けていく。働き方改革も鑑み、教員の引率をとまなうコンテストへの対応が課題。教科横断的な、かつ学校横断(Cross School)の学びは生徒の学びを駆動するのに最適。今後も継続していく。無理のない職員からの協力と、生徒の参加時間確保が課題。</p>	<p>・現役国立大学合格者数目標達成は偉業である。(運営委員)</p> <p>・土曜講座に申し込めないこともあるので、映像記録などの配信を検討してもらえないか。(保護者)</p> <p>・コンテスト参加を増やすことでどのような変容を求めているのか示すとよい。(運営委員)</p>	<p>①最後まであきらめず高い志で挑戦する生徒が多くいた。探究学習から進路実現につなげたことは大きな成果である。</p> <p>①土曜講座を多く開講することができた。教員の興味関心を生徒につなぐことは教育的意味がある。</p>	<p>①合否結果報告をフォームに変えたことで、集約はしやすくなった。また、職員の作業も減じることができた。</p> <p>①充実期、発展期の入り口で指導方針や身に付けたい能力を発信していくことが大切である。今年度実施した講話等を継続していく。</p>
4	地域等との協働	<p>地域交流から社会貢献意識を醸成する。神奈川県を代表する中高一貫教育校としての魅力を発信し、6年の学びの意欲を引き出す広報、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>①校外活動を促し、地域交流の機会を模索する。</p> <p>②保護者目線、生徒目線の観点で学校案内を作成する。</p>	<p>①地域と連携した防災訓練を計画、実施する。</p> <p>②生徒のアイデアを生かした学校案内を作成する。</p>	<p>①交流参加状況はどうであったか。</p> <p>②どのようなアイデアを生かすことができたか。</p>	<p>①相模原市地域振興課を交え防災訓練を実施することができた。</p> <p>②学校説明会には2,820名の参加者があり、志願者数は880名(5.5倍)であった。</p>	<p>①避難後の生徒の状況把握を迅速に行うことが課題。</p> <p>②本当に本校を目指したい志願者に学校生活をイメージさせる広報活動が必要である。</p>	<p>・学校施設の耐震などの不安があり、施設維持についても知らせてほしい。(保護者意見)</p> <p>・十分な倍率なので、しっかり教育活動を維持していくことが大事である。(運営委員)</p>	<p>①避難訓練で地域とつながれたことは前進だった。</p> <p>②倍率にかかわらず、強く本校を志願する受検生が多くいる。教育活動への理解を継続して深めていくことが大切である。</p>	<p>①災害に多く見舞われる現状から学ぶため、様々な場面を想定した避難訓練を実施する必要がある。</p> <p>②教育活動を通し、本校を志望する受検生を集約できる広報を継続する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>業務を組織的に可視化させ、効率向上から働き方改革を推進するとともに若手OJTを推進する。地域から信頼されるため、職員一人ひとりが県職員としての自覚を持ち、事故防止意識を持って取り組む。</p>	<p>①帰宅しやすい環境づくりの継続と業務削減に取り組む。</p> <p>②同僚性の醸成に継続的に取り組み、不祥事防止の意識を高める。</p>	<p>①ノー会議デーや帰宅宣言カードの継続および「スクラップ提案書」を導入する。</p> <p>②教員による不祥事防止研修を継続する。生徒との適切な距離の取り方を重点目標とする。</p>	<p>①時間外勤務時間、年休取得数の検証</p> <p>②研修会は実施できたか。</p>	<p>①帰宅宣言カードは宣言しづらさもあり、浸透しなかったためチームズでの休暇等の明示に変更した。しかし時間外勤務年間平均時間がR4年度に比べて約50時間減少した。R4:374,54 R5:325.53</p> <p>②外部講師(産業能率大学杉田一真教授)を講師に同僚性の醸成を目的に、ロールプレイを含むコーチングの研修を行った。</p> <p>②校内の事故を全員で受け止め、ヒヤリハット事例も自分事にしながら、校務に向き合うことがきた。また成績についても全教科で成績処理シートの再チェックを行った。</p>	<p>①「私のスクラップ提案」等の意見を取り入れながら、引き続きスクラップ&amp;ビルドに取り組む。</p> <p>②外部講師、ロールプレイを含む研修は同僚性醸成に効果がある。</p> <p>②防止策の確実な引継ぎと日々の意識改革として年度当初および会議ごとに全職員で確認する。また、速やかに情報共有することを継続する。</p>	<p>・エレベーターをつけてほしい。(保護者意見)</p> <p>・今年度は事故があったので、次年度にはどのように改善し、成果がどうだったか検証してほしい。(運営委員)</p>	<p>①留守番電話機能により、時間外の入電を制限したことで、放課後を授業準備や生徒指導に充てることができていた。部活動移行については、中高一貫の特性を考えると、前期課程生を切り離すことには限界があると考えられる。</p> <p>②不祥事防止には大きな課題が残った。この経験を活かし、「個人情報取り扱い」は再度指導を徹底し、一丸となって取り組む必要がある。</p>	<p>①これまでデジタル採点や入電の時間制限、管理服簿の廃止等を進めたが、多忙解消とまではいかない。しかしながらあきらめず効率よい業務の推進を進めていく。</p> <p>①次年度は学校全体で部活動地域移行について話し合う必要がある。</p> <p>②不祥事防止については、信頼回復に向け、校務に取り組んでいく。</p>

